

クローズアップ NGO・NPO

NPO法人ロシナンテス 国際協力と地方自治

ロシナンテスは、2005年から日本とスーダンの架け橋として活動を始め、その翌年に内閣府にNPO法人として登録されました。

■ 設立の経緯

ロシナンテスの理事長を務める私（川原尚行）は、以前外務省に医務官として勤務しており、タンザニアに3年半、英国に1年、スーダンに2年半の計7年間、外務省に籍を置いていました。

私が勤務したスーダンは、長年の内戦状態であり、1992年から日本政府は、スーダン政府に対してODA（政府開発援助）を停止していました。また、外務省の医務官では、現地の人を直接、診察することが出来ませんでした。そして実際には、多くのスーダンの人々が病に苦しんでいる姿を見てきました。外務省にいたのでは、その人たちに直接手を差し出すことができません。そのために、医師として何か出来ることを始めようと、外務省を辞職する決意をしました。

外務省を辞めた当初は粹がっていた私でしたが、現実には「外務省」という肩書が取れると、支援のお願いをしても門前払いの連続でした。肩書もない私は、全く非力なものでした。そんな私に協力を申し出てくれたのは、地元・北九州の昔の仲間でした。彼らは、私の肩書がどうであれ、私を信じて応援をしてくれたのです。このような仲間を大切にしようと、北九州を日本の活動の拠点としました。本部を北九州に置き、東京を支部としました。

■ スーダンでの活動

1 母子保健事業等

スーダンでは、東部で診療所の運営を行っています。スーダン人で構成される医療スタッフを雇用しています。この4月からJICAとのパートナー事業である母子保健事業を開始しています。これは、妊産婦死亡率および乳児死亡率が高い同地区において、同死亡率の軽減を目指して、以下のことを行っています。

- ① 現在全く教育を受けていない産婆さんからの出産ですが、それに代わって教育を受けた助産師さんを介しての出産の促進。
- ② 女性に対しての保健教育を行い、妊産婦、そして乳幼児の健康管理を行う。
- ③ 診療所のさらなる改善を行い、同所での出産を促進する。

また、去年は診療所のある村に、給水所を建設しました。老朽化して使用不能であった古井戸を改修したものです。村人からは、少額ずつですが水使用料を徴収し、給水施設の維持管理にあてています。

同村にて、女子小学校の建設も昨年行いました。これで女子に対する教育が整うことになります。



同じ地区にお 女子小学校建設のためのセレモニー

いて医療を中心として水そして教育と社会インフラを整えることより、この地域のモデル的な発展を目指しています。

2 交流事業

活動の2つ目の柱として、交流事業を行っています。日本の学生にスーダンに来てもらい、研修を行っています。今までに50人近くの医学生を中心とした学生の受入れを行いました。もちろん医学の研修も行いますが、スーダンというテロ支援国家に指定されている国を、日本という外側から見るのと、実際にスーダンに来て内側から見ることの違いをそれぞれに感じてもらっています。

これは、何事にも通用することで、ある物事（人物でもよいですが）を見る際に、ある一つの角度からものを見ただけで判断するのではなく、いろんな角度から（自分の立ち位置を変えて）ものを見て、最終的に自分の中で判断していくことを教えています。一般大衆がそう思っている、違うことは世の中に多数あるものです。流されない自分を作ることも必要です。スーダンを教えの場として行っています。

また、スーダンから日本へ来てもらってもいます。先月は、ハルツーム大学（日本でいえば東京大学）の学長さんが、日本を訪問しました。もちろん北九州にも来ていただきました。その際には、ホテルでの滞在ではなく、私の家に泊まっていただきました。私の両親は、健在で、英語が出来るというわけではないのですが、人をもてなす心だけは十分に備えており、私がいなくともスーダンの方々をきちんともてなしています。心と心が通い合えば、言葉は二の次だということがわかります。草の根外交は「心からのもてなし」ではないでしょうか。ホテルにお泊めすると、東京でも大阪でもニューヨークでもロンドンでも同じでしょう。それよりも、多少の不便はあるとしても、日本の民家にお泊めすることが、日本の文化を知ってもらう上でも重要だと思います。両親そして家

内には、迷惑をかけていると思いますが、これも外交の一步のためだと言っております。

3 スポーツ事業

アフリカで一番人気のあるサッカーを少年と女子に教えています。紛争の絶えないスーダンですが、子供たちに大好きなサッカーを思う存分してもらい、そしてスーダン代表となってワールドカップに行くんだ！という夢を持ってもらいます。その夢を達成するために、平和な国づくりをしなくてはいけないと子供たちに思ってもらいます。サッカーを道具として、子供たちにメッセージを投げかけようとしています。



村の人たちと一緒にサッカーで楽しむ

■ 地元での活動

日本では北九州を中心として資金集め、活動の広報活動を行っています。

昨年は、北九州にて「第1回、集え！北九州のロシナンテたち!!」と題して、今までにスーダンに来てくれた学生を北九州に呼び、地元の学生たちを聴衆としてパネルディスカッションを行いました。このイベントの裏方には、北九州大学の学生にお願いし、地元行政にも手伝ってもらいました。第1回と銘打っている以上、今後継続するようなイベントにしていきたいです。

地方都市でもこのように特色のあることを行い、何も大都市を目指すのではなく、地域住民の住みよい街として、感じ取ればよいでしょう。



北九州でのイベント後、スーダンからの招待客と北九州大学生

NPO法人ロシナンテス

〒802-0066 福岡県北九州市小倉北区萩崎町9-35

TEL 093-922-6470

FAX 093-921-8962

e-mail info@rocinantes.org

URL http://www.rocinantes.org/